

飛騨市まちづくりレシピ

まちづくりって特別なことじゃなく、みんなの暮らしがちょっと豊かになる活動。
飛騨市内で活動されているまちづくり団体を紹介していきます。
気になる活動があれば、気軽に参加してみませんか？

ひだす
HIDAPLUS

人の温かさと森の恵みが パワーの源！

飛騨市地域おこし協力隊 岡本 文さん



▲飛騨に来て初めての農作業。みんな優しい！



▲六本木で薬草茶のティーセレモニー♪



▲飛騨市ファンクラブ薬草部で薬草ビザづくり

「薬草は苦くて美味しくないものって思っていたんですが、飛騨でその認識が変わりました」と語ってくれたのは、2018年10月に飛騨市に移住し、地域おこし協力隊の薬草担当として活動している岡本文さんです。

岡本さんは愛媛生まれ。親の転勤で子どもの頃は転校を繰り返し大阪、福岡、千葉で過ごしました。大学卒業後は銀行で営業職を担当。お客さんと話をすることが楽しいと感じていた反面、大変なことも多く体調を崩してしまいました。

そんな時、花に触れることで気持ちが安らぐことに気づき、フラワーアレンジメントを学びました。花屋でバイトをしたり、花の装飾を頼まれたりと、徐々に元気を取り戻し、知人に会いに行ったバリエーションで、花にあふれる街に惹かれ、現地の研修制度を利用して、フランス国内の5カ所の花屋で働きながら2年半を過ごしました。その後立ち寄ったニューヨークでも素敵な花屋と出会い、思わず「ここで働きたいです」と声をかけ、そのまま3ヶ月程働いたそうです。

帰国後は東京の花屋で仕事を始めましたが、海外と日本のギャップや身体的なハードさに、「このままではまた体調を崩してしまう。」と感じました。「身体の中からケアできる自然のものがあるといいな」と思っていた時に出会ったのが「薬草」。たまたま手に取った本で紹介されていた「古川町の蕪水亭の薬草料理」が飛騨へ行くきっかけとなりました。

飛騨で初めて食べた薬草料理の美味しさに驚いた岡本さ

ん。「もっと薬草の事を知りたい、薬草を取り入れて暮らしている人と過ごしてみたい」と感じ、飛騨市で出会った方々の後押しもあり、2カ月後には地域おこし協力隊として着任しました。

協力隊としては薬草について学びながら、地元の方々と繋ぎ、飛騨市の薬草の豊富さ、美味しく薬草を取り入れることなど伝え、薬草で飛騨市が元気になるための活動をしています。2020年には「ぎふ女のすぐれもの」にも認定されました。

2019年10月には薬草を気軽に取り入れることができる施設「ひだ森のめぐみ」がオープンしました。薬草茶の販売やワークショップも体験できます。薬草に興味を持ってくれる方、応援してくれる方が増えたことがとても嬉しいそうです。

今年7月には飛騨市で行われた「地方創生実践塾」のメイン講師として、『地域おこし協力隊が中心となって取り組む薬草を活用した地域づくり』について講義をしました。

「この3年間の集大成になった」と語る岡本さんは9月に協力隊を卒業します。「受け入れてくれたこの地域に恩返しができるように、引き続き飛騨市で薬草に関わり、私だからできる事をやっていきたいです」と語ってくださった岡本さん。今後は自分で山に行き薬草を取り、その薬草で料理をして食べるといった体験の提供なども考えているそうです。これからの活躍が楽しみです。

基本情報

着任：2018年10月
活動地域：飛騨市内
主な活動：薬草のお茶や料理などの紹介、魅力発信やイベントでの講師

▼山に行って薬草の説明もします！



▲講師として飛騨市の薬草を全国に発信

飛騨市のまちづくり最新情報はこちら▶

<https://www.city.hida.gifu.jp/site/hidaplus/>

